

令和4年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程	グローバル時代に生きる資質能力の育成	グローバル時代に必要の資質・能力の育成の観点から、通常学級、特別支援学級が関係づいた体験型の学習を柱にした教育課程を編成し、実施する。	STEP, SMART, 海外の姉妹校との国際交流等、特色ある教育活動を充実させる。	ポートフォリオをもとにした個人の振り返りおよび諸行事のアンケート結果を分析し、80%以上の生徒が肯定的に評価している。	多くの生徒が行事の復活を肯定的に捉えており、新行事については、95%の生徒が目標を意識して準備を行い、その目標を達成できたと回答している。	A	行事が再開されることにより、学校が活性化している様子が分かった。行事を通して生徒を育てることは重要であると同時に、学校として何を大切にしているかを意識してほしい。	A	学校行事や生徒会行事をはじめ、諸活動において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを再検討し、教職員で共有するよう努める。
教育研究等	東雲小・中学校での共同研究の推進	汎用的能力育成のために、各教科等の教育内容を精査しながら、学習指導法の開発を行う。	教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力について各教科等の視点から研究を進める。	HPの研究会案内・実践紀要へのアクセス数が昨年度に比べて増加している。	対面型の研究会を再開した点は大きな前進であった。一方、研究会の代替として動画配信を用いた昨年度と比べると、HPへのアクセス数が伸びず、実践紀要に関する周知が必要である。	C	人数制限があったものの、対面式の教育研究会が復活してよかった。HPへのアクセス数は参考にはなるが、教育の質を重視して研究を進めてほしい。	B	対面式の教育研究会を企画し、近隣だけでなく県外からの参加者を増やすように努める。
	インクルーシブ教育の推進		プロジェクト研修や授業交流を年間5回以上行い、特別支援学級の教員と通常学級の教員が互いの授業について協議する。	研修や授業交流についての振り返りにおいて、80%以上の教員が肯定的に評価している。	通常学級・特別支援学級を問わず、全教員が教科の枠を越えて6回の授業研修を行ったが、議論を深められたと回答したのは53%の教員にとどまった。議論の方法や内容を改めて検討する必要がある。	C	教育研究を重視するが故に自己評価が厳しくなる傾向があるかもしれないが、教員間の日常的な意見交流が行える場や時間を設定するように努めてほしい。	C	授業研究に関する議論が深まるように、研修会のあり方や教員間の意見交流のやり方について引き続き検討する。
社会連携・社会貢献活動等	地域連携・社会貢献の推進	通常学級と特別支援学級を有する特色や小中連携を行っている教育研究の拠点校として情報発信する。	本校の教育実践を地域住民に向けて発信するとともに、他校からの訪問を積極的に受け入れる。	地域住民に向けて発信できる行事等へ参加する機会をもち、可能な限り他校からの視察を受け入れている。	研修会等への派遣5件、海外を含む他校からの訪問3件、本学および他機関からの研究協力依頼5件に対応した。また、仁保公民館へ生徒による作品を展示した。	B	学校の教育活動の成果物を公民館に展示することにより、地域の中に学校が存在することをアピールすることができた。今後も継続させてほしい取組である。	B	仁保公民館との連携を継続するだけでなく、他の面においても、地域社会との関わりを意識できるような教育活動を検討したい。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和4年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	チーム東雲を意識した学校経営		校長をトップとして学校経営基本方針に基づいて教育活動を推進する。	教員を対象としたアンケートにおいて、80%以上の教員が管理職・部長・主任を中心とした学校運営が行われていると認識している。	94%の教員が管理職・部長等を中心に業務を行うことができたと回答している。また、他の教員を自発的にサポートしようとする雰囲気が出てきている。	A	管理職・主任等のリーダーシップに関する質問項目が多く含まれているが、教員のやりがいや熱意を問う項目を入れてみることを検討してほしい。	A	管理職・主任等のリーダーシップにより、各部署で業務改善に向かう議論を活性化させ、アンケート等で教員の熱意を測るような質問項目を含める。
	危機管理と安全な学校環境の整備	学校教育の基盤となる健康、安全、安心の確保及び附属学校としての使命の遂行の観点から、教員配置の適正化と教育研修の改善を図るとともに業務内容の整理による業務改善を行う。	年3回の避難訓練を実施するとともに、安全衛生委員による定期的な点検を行う。	避難訓練を振り返ることにより、生徒・教職員から危機管理に関して改善点や課題が挙げられている。	年3回の避難訓練を行い、安全確保について、生徒間・教員間で議論することができた。また、不審者対応について警察と連携して訓練・講習を行うことにより、教職員の意識がさらに高まった。	A	外部機関と連携して避難訓練を行っており、学活などで生徒と議論することにより、生徒・教員の防災意識を高める取組は継続させてほしい。	A	生徒・教職員がともに防災について考える機会を確保し、より充実した訓練を行えるよう議論を継続する。
	勤務時間管理と業務内容の改善		分掌・学年において、業務改善につながる提案を促す。	勤務時間外の在校時間を昨年度に比べて5%削減できている。	1日当たりの勤務時間を短縮した影響で、学校全体として勤務時間外の在校時間を減らすことができなかった。個人内では減少させるよう努めてきたところであり、今後は業務内容に応じて個別対応が必要である。	C	一般的に、個業になると労働時間が増える傾向が見られるので、チームで業務に取り組む意識が必要である。また、思い切って何かを止めることにより、新たな時間を捻出する工夫も求められる。	C	チームワークを向上させるため、個人の業務遂行について、進捗状況をリーダーが把握するよう努める。
グローバル対応	国際交流の充実	グローバル時代に必要な資質能力を実際の国際交流を通して育成する。	Exploris Middle Schoolの来日交流を再開する準備を整え、来年度の渡米交流へ繋げる。	取り組みの状況や振り返りの内容を検証し、80%以上の生徒・教職員が国際交流を肯定的に捉え、今後の展望をもつことができています。	ホストファミリー説明会に50名を超える保護者が申し込み、現状、生徒・教職員が意欲的に準備を進め、大半の生徒・保護者・教職員が国際交流の再開を前向きに捉えている実態がある。	B	姉妹校との交流を準備するにあたって、想定した以上に校内が活性化しているようで、教育活動の柱の一つとして国際交流を大切にしていきたい。	B	再開できた来日交流をより充実させるとともに、渡米交流の再開に向けて、選考等についての検討を継続する。
教育実習	教育実習の充実	今日的な教育課題と学校の特性に応じた教育実習の在り方について検討する。	教育実習生に特別支援学級の内容を認識させ、主体的、対話的な深い学びを目指す授業づくりを指導する。	教育実習生を対象としたアンケートにおいて、80%以上の実習生が実習指導に満足している。	全員の教育実習生が担当教員の指導に満足し、98%の実習生が自分の教科指導力が向上したと回答した。	A	真摯に自分のことを見つめたときに、自己評価が低くなる傾向があるので、長期的な展望をもって教育実習生の指導にあたってもらいたい。	A	教科指導力を身に付けさせることを継続し、教育実習生が教職についての展望をもてるよう実習指導を充実させる。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。